

志教育の 視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
------------	----------------------

活動名	志をもった産業人材の育成
教科・領域等	全科 情報海洋科 産業経済科 機械技術科
活動学年等	全学年
ねらい	1年：「自分で見て触って感じる基礎基本の定着」（かかわる） 2年：「学びから将来を見通し、やりたいことを見つける」（もとめる） 3年：「学びを活用しアウトプット・就職・進学問わず、主体的な進路選択を行う」（はたす）

【実践事例】

※【か】かかわる 【も】もとめる 【は】はたす

1. カッター実習 【か】【も】

(情報海洋科・産業経済科)

本実習は、船の基礎的な運用法を学ぶ他、仲間との協働力、体力・気力を身に付けることを目的とした海洋実習です。仲間と息を合わせて、協力し合いながら一杯、漕ぐことができました。



2. スキンダイビング実習 【か】【も】

(情報海洋科)

潜水の知識・技術を学びます。泳ぎが苦手な生徒も、ウェットスーツとフィンをつければ不思議と泳げるようになりました。



3. 「TIG 溶接講習会」【か】【も】

(機械技術科)

紫樹褒章の受賞者、溶接マイスター、技能五輪出場経験者など外部からの特別講師を招いて、ステンレスやアルミの溶接について実践的な指導を受けました。



4. 卒業生による技能五輪メダリスト報告会・実演会 【か】【も】【は】(機械技術科)

本校卒業生（日産自動車に就職）が「第63回技能五輪全国大会」金メダルを受賞、国際大会に出場。訓練内容や、大会でのエピソード、今後の活動についての講話と、トップレベルの技能実演を見ることができました。



5. 企業見学 【か】【も】(情報海洋科)

NEXCO 東日本を訪問。東北全域の高速道路網が表示された大画面を前に、事故やトラブルの発生場所の特定方法などについて説明を受けました。さらに、泉パーキングエリア(下り線)ではETCの作動方法や非常電話の仕組みについて、実際の設備を使って学ぶことができました。



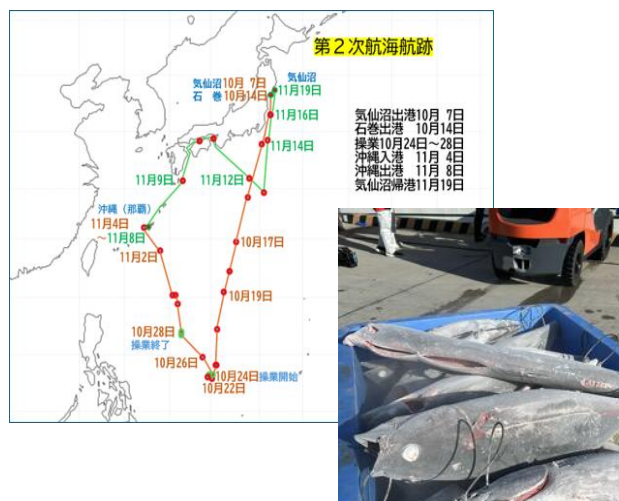
6. 「カップラーメンの解剖」【も】(産業経済科)

製造工程などを学んだ後に、容器に観察用の窓を開けて内部構造や乾燥具材の観察を行いました。表示や関係法令、知的財産についてより深く学ぶことができました。



7. 宮城丸長期航海【も】(情報海洋科)

宮城丸が無事に気仙沼港へ入港しました。長期間の実習を通じて多くの経験を積んだ実習生たちは、凛々しい表情で港に戻ってきました。入港後には実習で漁獲したマグロなどの水揚げ作業まで見届けました。



8. 「向洋まぐろ油漬け缶」販売会【も】【は】(産業経済科)

本校情報海洋科海洋類型の2年生が長期航海で漁獲したピンチョウマグロを使用して、産業経済科2年生が製造実習で、「まぐろの油漬け缶」を製造・販売を行いました。トレーサビリティと六次産業が実践されています。



9. 出前授業【は】(機械技術科)

気仙沼市教育サポートセンターにて、機械技術科3年生が、課題研究の授業の一環として小中学生向けに出前授業を行いました。人型ロボットPepper(ペッパー)に、scratch ソフトウェアを利用したプログラミングを行い、動作させたりしゃべらせたりする内容でした。



10. 小学生来校施設見学【は】(情報海洋科)

階上小学校の5年生が本校に来校しました。実習室や設備について説明を受けながら、高校での学びに触れました。探究学習について、本校生徒との意見交換を行い、活発な交流の場となりました。



11. 課題研究発表会 【か】【も】【は】 (全学科)

気仙沼向洋高等学校体育館にて令和7年度課題研究発表会(一般公開)が開催されました。3年生はこれまでの学習の集大成として研究の成果を発表し、1・2年生は先輩の発表から多くの学びを得ることができました。



12. 研究成果の発表【は】 (産業経済科)

仙台うみの杜水族館において特別展示「深海ナイト水族館」で、産業経済科の今年度取り組み「水産資源の有効利用に関する研究成果」を展示・発表しました。多くの来場者に向洋高校の研究成果を見ていただきました。



【成 果】

- 生徒が「将来どうありたいか」を考える機会が増え、目的意識や進路意識が明確化できている。
- 探究活動や課題研究を通して、主体的に学ぶ姿勢が育成された。

【課 題】

- カリキュラム上、継続的・体系的な指導時間の確保がもとめられる。
- 外部連携の継続性を考える必要がある。

【今後の展望】

- カリキュラムの体系化
 - ・各教科と横断的に連携し一貫した学びの流れを構築する
 - ・外部連携の深化 企業・大学・地域と長期的なパートナーシップを構築する。
- 学びの社会接続の強化
 - ・課題研究の成果を地域や社会に還元し、実社会との循環を形成する。
 - ・キャリア教育と結びつけ、進路実現へ接続する。